

今回は、中学時代の恩師からの依頼で小学校での英語指導に関わるようになり、その後中学校時代の英語の先生の勧めでJ-SHINE資格を取得された小田さんの実践報告です。



小田ゆかさん

J-SHINE小学校英語上級資格者  
海外在住歴 計11年  
客室乗務員歴15年  
千葉県習志野市立小学校のJTE 7年

# J-SHINE 通信

2015年2月号

## ■J-SHINE資格、上級指導者資格取得のきっかけ

2007年4月よりその前年度までの学校長より依頼されて教えることになりました。

この年度から、同校が市内の小学校で英語教育の先駆けとしてモデル校として英語のクラスが始まることになったからです。

この依頼者がなんと私自身の中学1年のときの担任の先生でした。当時、2学期までこの先生のクラスに在籍しましたが、3学期から海外へ引越しをすることになりました。

この転校の際に当時担任の先生だったこの先生が、とてもとても温かく思い出深く私を見送ってくださったことが大人になっても忘れられませんでした。

教えることになった小学校は自分の母校ではありませんでしたが、何よりもお世話になってご恩のある先生の依頼だったこと、ちょうどその4月から娘も通うことになっていた小学校でもあったこともあり、お引き受けすることにしました。

何かご恩返しをしたいとは思いつつ、なかなかそんな機会もなく過ごしてきて大人になり、親になって・・・人生のいつ、どこでまたご恩のある方に関わることになるとは思っていませんでした。

しかし、私自身30人もの小学生のクラスで教えるなどという経験はもちろんなく、英語を話せることと、分かりやすく楽しく教えることは別だと思いましたので正直かなり戸惑いました。

何しろ先駆けということで、授業の見学すらしたこともなく、どう行っていったらいいか？と思い悩みましたが、カッコなんてつけず、自分らしく、児童もみんな自分の子供のような感覚でいればいいと腹をくくりました。

ある時、やはり教育委員会からの依頼でいらした英語指導の達人的先生とご挨拶をすることになり、お目にかかった先生が、これまた先に述べた中学校で英語を教えてらした先生でよく存じている先生でした。ここでもまた深いご縁を感じざるを得ませんでした。その先生には私の立場に対して大変なご理解とアドバイスをいただき、その中でJ-SHINEの小学校英語指導者の資格があるということを教えていただきました。資格がないとできないことではないけれど、あなたなら取れるし、是非取得してみたいいいとお勧めいただいたのが資格をとろう！と思い始めたきっかけでした。

恩返しとご縁が重なったスタートでした。

## ■現在の活動状況

初めの6年間は毎週1日5、6学年2クラスずつの4時間の授業をALTと共に行っていました。その後の1年は仕事の関係もあり、隔週での5、6学年2クラスずつの1日4時間の授業とさせていただきます。

英語担当の学校の先生と一緒に毎回の授業反省も兼ねて話し合いながら指導案を組み立て、必要な教材、絵カードの準備、キーセンテンスの決定などを行い、指導案作成までの担当の先生の指導もしてきました。

授業の中では、そのクラスの担任の先生の性格や経験も違うので、新年度の初めはまずJTEとALTだけで授業を行っていき、先生も慣れてきたなと感じたところで少しずつ担任の先生も巻き込んでいきました。少々お気の毒だったかもしれませんが、まずは担任の先生に英語攻めしてみます。児童たちが普段聞いてみたいけれど聞けずにいる担任の先生のプライベートなことなどを急にまえぶれもなくたくさん聞いてみると・・・先生がびっくりしたり、先生によってはわざと大げさに困ってみたり、案外英語だと正直に答えてみたり・・・これで一気に盛り上げると共に“先生も英語苦手なんだな、自分たちと一緒にかも？”と感じ始めて、自分たちだけが急に英語を習うことになって困っているわけじゃないんだ！と思ってくれます。子供たちのこの思いでその後、またこの先生攻めを期待する児童もたくさん出てきて、英語の授業を楽しみにしてくれる要因にもなっているように感じました。

担任の先生にも徐々に慣れていただき、絵カードの出し方にもバリエーションを設けるだけで子供たちのわくわく感も変わってくることを覚えていただいたり、クイズ形式でゲームをやる時には出題もしていただいたり・・・と参加していただける場面を作ることを心がけて、ALTに振るとき、担任の先生に振るとき、そしてここは自分が説明を加えたいなというときと場面を常に考えながら、授業をコーディネートしてきました。

学期の初めと最後はウォーミングアップや授業内容の調整も兼ねて、“Jeopardy”\*1というクイズ形式の授業をします。

カテゴリを1. Introduce yourself 2. Vocabulary 3. Q&A 4. Cluesに分けてそれらを更に得点10・20・30・40・50・60までのBOXに分けておきます。そのBOXを選んで正解すればその得点がもらえ、間違えると得点の半分を引かれる、さらに50・60点問題は40まですべて終わらないと選べない、最後

は得点を3倍にして逆転ができるように・・・などと工夫します。問題は一応考えておきますが、その場でもっとひねってみたり、ひっかけ問題にしてみたりと、ALTと工夫しながら対応します。この“Jeopardy”は大変盛り上がり、いい復習にもなるので是非お勧めしたいと思います。

自分ひとりの授業になることなく、担任の先生がただ見ているだけの授業になることなく、ALTの出番も作り・・・と授業全体とその日の児童たちの様子もみながら臨機応変に内容を変えたりもしてきました。

## ■今後の展望、課題、目標

課題はたくさんあると思います。

1) まずは学校長の英語教育への意識の違いによっては、結果的にALTとJTEに授業を丸投げになってしまう年と積極的に授業内容の検討や授業に参加してくれるときの差があるということです。学校長のみならず、教頭先生や英語担当の先生の考え方にも同じように差があることを残念ながら感じざるを得ません。

2) 無償か、有償かについても課題は多いと思います。

自治体により違いがあると思いますが、今はほとんどの公立小学校ではALTに対しての予算はとっていても、JTEは無償で探そうということが多いということです。私の場合は有償の年があったり、全く無償の年があったりの7年間でしたが、有償と言っても年間で3万円の年もあります。

授業の内容を組み立て、指導案づくりの指導をして、授業そのものもやって、ALTと学校側との通訳もしてと求められていることが多いわりには、まだまだJTEに報酬を払うという意識に欠けすぎていると思います。ボランティアのつもりでならそれでもよいでしょう、しかし、きちんと資格も取りプロの意識を持って責任ある仕事をしているつもり身としては、納得行かないと思うことも多々あります。これからの継続的な人材の確保も考えたらきちんと有償にするべきではないかと考えます。

これは今後、英語教育が低学年から始まるならば尚更、担任の先生の精神的負担を減らす意味でも各学校にひとりはず JTE が来るのが好ましく、そのためにももっと J-SHINE の存在を周知してもらうことが必要だと実感しています。

3) J-SHINE の資格の維持について

せっかく資格を取得できても、まだまだ公立小学校での募集も少なく、さきに述べたように無償であるがゆえに経済的理由でJTEのポジションにつけないことも多いです。そうすると、せっかく取得した資格を維持していくのは難しく、維持しているところで収入にはあまり繋がらないとなると資格の維持も断念しなくてはなりません。

また継続してJTEをやる気でいても、急に学校側の都合や校長先生の異動等で継続できなくなったり、4月に連絡がないから学校を訪ねてみたら、引継ぎを受けていなくてちょうどやりたいとおっしゃる方ができたのでお願いした、と言われておしまいになってしまうこともあるのです。実際、私がこのパターンで急に今年度からJTEとしての役割がなくなっていました。

資格の維持については、継続してJTEとして関われる人ばかりでないこともあり、放棄しなくてはならない人材も増えてきてしまうのはとても残念でなりません。

これからオリンピック開催もある中で日本の子供たちがもっと小さいときから抵抗なく異文化に触れていき、外国人ともコミュニケーションをとりたいという気持ちや興味を抱かせてあげることが大切ではないでしょうか。日本人がもっと世界に目を向け、他人事ではない世界情勢も考えていけるような大人をつくって行くべきだと思います。

### \* 1 “Jeopardy”

1964年にアメリカ始まったテレビのクイズ番組。

問題はカテゴリー別、金額別に区分されている。

jeopardy (ジェパディ) とは、危険にさらされること、有罪になる危険性、危機、危険。